「将来を期待して種を蒔く」詩篇を味わう②

詩篇１２６篇１～６節

今日は、短いですが印象的な詩篇である 126 篇を読みましょう。

イスラエルは、紀元前六世紀にバビロンにより滅ぼされ捕囚の民となります。有名なバビロン捕囚です。しかしエレミヤが預言したように 70 年後にペルシャ王クロスによって帰還がゆるされて、彼らは順次帰還しエルサレム神殿の再建に取り組みます。しかしその道は平坦ではありませんでした。その喜びと感激は続かず、帰還も思うようには進まなかったのです。

① 二つの現実の中に生きている私たち

“主がシオンを復興してくださったとき　私たちは夢を見ている者のようであった。
そのとき　私たちの口は笑いで満たされ　私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。
そのとき　諸国の人々は言った。「主は彼らのために大いなることをなさった。」
主が私たちのために大いなることをなさったので私たちは喜んだ。” 1-3

主よ　ネゲブの流れのように　私たちを元どおりにしてください。” 4

② 「ネゲブの流れ」を待ち望む

“主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように
わたしたちの捕われ人を連れ帰ってください。”4、新共同訳

“見よ。わたしはこの都に回復と癒やしを与え、彼らを癒やす。そして彼らに平安と真実を豊かに示す。”ｴﾚﾐﾔ33:6

③ どんな状況でも種を蒔き続ける

“涙とともに種を蒔く者は　喜び叫びながら刈り取る。
種入れを抱え　泣きながら出て行く者は　束を抱え　喜び叫びながら帰って来る。” 5-6

“あなたがたは正義の種を蒔き、誠実の実を刈り入れ、耕地を開拓せよ。今が主を求める時だ。
ついに主は来て、正義の雨をあなたがたの上に降らせる。”ﾎｾｱ10:12

“…ですから、『一人が種を蒔き、ほかの者が刈り入れる』ということばはまことです。わたしはあなたがたを、自分たちが労苦したのでないものを刈り入れるために遣わしました。ほかの者たちが労苦し、あなたがたがその労苦の実にあずかっているのです。」” ﾖﾊﾈ4:37-

＜話し合ってみましょう＞

・与えられていることと願っていること（たとえば、過去と将来、実現したことと見えないこと、すでにといまだ、など）の間で、私たちは、今のこの時をどのように生きているでしょうか。

・種を蒔き続けるということは、具体的に自分にとってはどういうことだと思いますか。